

広報委員会（第26期第2回）
広報委員会国内外情報発信強化分科会（第26期第3回）
合 同 会 議
議 事 要 旨

1. 日 時 令和6年6月25日（火）10:00～12:00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席者 池邊委員、伊藤委員、磯委員、内田委員、瓜生原委員、隠岐委員、
加納委員、狩野委員、高田委員、高山委員、戸谷委員、永井委員、
中村委員、三成委員、美馬委員

4. 配布資料

- 資料1－1 広報委員会 委員名簿
- 資料1－2 広報委員会国内外情報発信強化分科会 委員名簿
- 資料2－1 第1回広報委員会議事要旨
- 資料2－2 第1回広報委員会国内外情報発信強化分科会議事要旨
- 資料2－3 第2回広報委員会国内外情報発信強化分科会議事要旨（案）
- 資料3－1 日学ホームページの情報発信体制の強化について
- 資料3－2 日本学術会議メディアの現状（国内外情報発信強化分科会（第2回）資料7）
- 資料4－1 第26期パンフレット構成案
- 資料4－2 第26期パンフレットレイアウト案
- 資料4－3 第26期パンフレット案（日本学術会議のこれまで）
- 資料4－4 日本学術会議ホームページの歴史・沿革（国内外情報発信強化分科会（第2回）資料6）
- 資料4－5 第26期パンフレット案（Q&A）
- 資料5 日本学術協力財団から日本学術会議への要望
－「学術の動向」の刊行継続と発展および連携強化について－
- 参考 第25期パンフレット（日本語版、英語版）

5. 議 事

(1) 今後の情報発信の進め方

○日学ホームページについて

- ・今後、ホームページの改善について議論する際には、イメージしやすいよう、イメージ図や他の団体のホームページの事例等を示すことが望ましいとの意見があった。
- ・学術会議の活動をより広く知ってもらうため、ホームページへの情報掲載だけでなく、パンフレット、SNS等の各種媒体からホームページへの誘導を図ることが重要との意見があった。
- ・意思の表出について、最終的な成果のみならず、現在検討しているテーマや検討状況を途中段階から発信することにより、学術会議の活動を可視化していくこ

とも検討すべきとの意見があった。

- ・一方、公式ホームページで発信する情報については、組織としての責任や正確性を担保する必要がある、迅速な発信との両立が課題であるとの意見があった。

○日学パンフレットについて

- ・パンフレットの主な対象について、一般市民のみならず、国会議員・行政等の政策決定に関わる者、会員・連携会員、学協会等も念頭に置きつつ、関心を持つ層に学術会議の役割や活動を理解してもらう媒体として作成する方向性が確認された。

- ・日本学術会議の活動を分かりやすく伝えるため、冒頭で示す活動の柱と各ページの内容との対応関係を明確にするとともに、見出しや本文の表現・文体を統一する必要があるとの意見があった。

- ・「学術とは」「アカデミーとは」や学術会議の歴史・沿革についても盛り込み、社会や政策決定に学術会議がどのように貢献してきたか、また、どのような機能を果たしているかを分かりやすく伝えることが重要との意見があった。

- ・歴史・沿革に関する記述を含め、掲載内容については十分なファクトチェックを行う必要があるとの意見があった。

- ・Q&Aについては、想定する読者に適した表現とし、質問と回答の文体・トーンを整理する必要があるとの意見があった。

- ・会長メッセージについて、パンフレット全体の流れを踏まえ、掲載位置を工夫する必要があるとの意見があった。

- ・各ページに二次元コードを掲載し、関連するホームページの情報に誘導するなど、紙媒体とウェブ媒体を連携させることが提案された。

- ・学術会議で使用する言葉が一般の方の感覚では馴染みがない言葉があるため、そういった用語の洗い出しや言い換えが必要との意見があった。

- ・会員・連携会員以外の配布先、また配布対象に合わせた記載内容とする必要性についても意見があり、必要部数や予算等を踏まえて検討することとなった。

- ・英語版については、日本語版の完成後に検討を進めることとされた。

○動画による情報発信について

- ・ホームページや SNS 等を自ら閲覧する層にとどまらず、一般市民に情報を届けるため、会員・連携会員のうちメディアで発信力のある研究者等にも協力を求め、ショート動画を作成して YouTube で発信するなど、より積極的な情報発信を検討すべきとの意見があった。

- ・こども霞が関見学デーについて、開催の様子を動画として YouTube で発信することや、参加した子どもへのインタビューを盛り込むことが提案された。

- ・光石会長のビデオメッセージについて、7月を目途に公開する予定である旨の報告があった。

(2) その他

- ・こども霞が関見学デーについて、学術会議の活動を視覚的に伝えるため、公開シンポジウム等のポスターを学術会議庁舎内に展示することが提案され、事務局において検討することとなった。

- ・こども霞が関見学デーについては、ホームページやX等を活用して事前周知を行うとともに、若年層に学術会議を知ってもらう機会として活用していくことが確認された。

- ・学術会議の情報をより広く社会に届けるため、重要な意思の表出について記者会見を行うことや、メディア関係者に分かりやすく伝えるためのメディアトレーニングを実施することなど、マスメディアへの発信を強化する必要があるとの意見があった。

- ・公式媒体からの発信に加え、会員・連携会員等が個人の立場から学術会議の活動を発信・拡散するなど、ボトムアップ型の情報発信も活用していくことが有効との意見があった。

- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）にパンフレットを送付し、二次元コード等を通じてホームページに誘導するとともに、意思の表出等を学習に活用してもらうための情報提供を行う方向性が示された。

以上